

かしわ



No. 19 平成31年3月14日 卒業式予行練習の様子

「振り返る」とは

校長 北村 耕一

平成30年度も残すところ2週間程となりました。この一年間、本校の教育活動へのご理解とご支援をいただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

この「かしわ」では各学部等のこの一年間を振り返り、次年度に向けてについて紹介したいと思います。

そこで「振り返る」とはどのようなことなのかについて調べてみました。「振り返る」の一般的な意味は「過去の事を考える。回顧する」というものでした。

学校における日常の授業において教師が幼児児童生徒に対して指導している「振り返る」とは「前時の振り返りをもとに本時の見通しをもつ⇒本時の振り返りをする⇒そして次の学習へつなげる」というものです。

私たち教職員はこの一年間を振り返り、「振り返り」は「感想」とは違うことを認識して、来年度の指導に繋げていきたいと考えています。

乳幼児教育相談 今年度を振り返って

乳幼児相談 黒川 はるみ

かわいい乳幼児が、1階のひよこ教室を訪ねてきます。2歳の男の子の療育の時のことでした。ひよこ教室の床に円形の道を作り、太鼓を鳴らして、音が聞こえている間は道に沿って歩き、音が止まったら音が止まった時のままの体勢で動きを止める、という遊びをしました。どんどこんどこ大きな音を鳴らしてゲームを楽しんでいると、教室のドアの外になんだか人が集まってきて、中を伺っているような気配を感じました。

「何事？」と思ってドアを開けると、そこには幼稚部の子どもたちがいました。大きな太鼓の音が恐ろしかった

らしく、鬼がパーティでもしているのではないかと、恐る恐る覗きに來ていたのです。幼稚部の子どもたちの発想を面白く思いましたが、離れている教室でもしっかり聞こえていることと、鬼を連想する情操が育っていることを嬉しく思いました。同時に、療育を受けていた男の子も、幼稚部の子どもたちのように育ってほしいと思いました。今年度印象に残ったエピソードの1つです。

幼稚部 今年度を振り返って・次年度に向けて

岩野 恵美子

今年度は、すみれ組(1名)・たんぼぼ組(3名)、幼児4名でスタートしました。『子どもたち同士のかかわりを大切にし、異学年での活動も有意義な時とする』を目標に、1年間を過ごしてきました。

日々の学校生活、校外・校内活動において、Rさんは年長としての自覚をもち、年少に優しく接しようとする姿が多く、場面で見られました。また、Yさん・Hさん・Iさんは、年長を憧れの眼差しで見つめ、自分も真似をして向上しようとする様子が沢山見られました。様々な保育活動を重ねる度に、子ども達同士の仲間意識が育っていったように感じました。今は、修了式で歌う「思い出のアルバム」を歌っていると、お互いに「淋しいな・悲しいな」と言ってお別れすることに思いを馳せています。

保護者の皆様には、今年度も幼稚部教育に沢山のご理解ご協力をいただき、心より感謝しております。本当に有難うございました。

来年は、あさがお組(3名)・たんぼぼ組(2名)、幼児5名の予定です。「元気に・明るく・楽しく」幼稚部生活を送ってほしいと願います。

小学部 今年度を振り返って・次年度に向けて

鈴木 紀子

今年度も、大きな事故や病気もなく、児童が元気に過ごせたことが何よりもうれしいことです。ご家族の皆様のご協力及び指導へのご理解、本当にありがとうございました。アイカや美術館への校外学習、4,5年生の宿泊学習、遠足、運動会、こどもまつり・・・行事がたくさんでしたが、どれも楽しく学びながら終えることができました。あくびをかみ殺しながら授業を受ける様子を見て、授業のやり方を反省したり、でもやっぱりちょっと怒ったりして授業を進めてきました。1年間の学習の成果は期待通りでしたか。

新年度に向けて小学部のみんなが期待に胸を膨らませています。また4月からよろしくお願いたします。

中学部 今年度を振り返って・次年度に向けて

勝 康雄

昨年度と同じ2名でスタートしましたが、初めて経験することがありました。

まず、中2・中3が10月に行った修学旅行です。新幹線に乗って、テンションが上がりましたね。東大寺や金閣寺、十三間堂を見学したり、万華鏡を作ったり、太秦映画村で楽しんだり、記憶に残ることがたくさんありました。心に残ったのは、タクシーの運転手さんや旅館の方のおもてなし、心の温かさだったのではないのでしょうか。

次に、中2が11月に実施した職場体験です。また将来の就職についてピンと来ていないと思いますが、心身ともに疲れましたが、この経験は必ずや将来につながると思います（私が中学生の頃は、職場体験自体がなかったもので、うらやましいです）。

そして、中3が1月に受けた高等部入試です。とても緊張しましたね。できることなら避けたいと思ったかもしれませんが、ほとんどの人が通らなければならない試練です。次年度は中2の番。中学部は1人になりますが、進路を自分で切り開きましょう。

高等部 今年度を振り返って

渡邊 豊

高等部の生徒は1名でしたが、中学部の生徒達と協力し合い、無事に一年を乗り切ることができました。春の遠足に始まり、神体連、修学旅行、ふれあい運動会、書き初め大会や百人一首大会と続く行事。更に、生徒会や委員会の仕事。確かに教師の力を借りる場面も多く、幼稚部や小学部の子ども達の目には、まだまだ頼りない先輩に映ったかも知れません。しかし、生徒は間違いなくひとまわり大きく成長したように思います。日常の挨拶、儀式や行事での言葉などにも自信が伺えるようになりました。そして、何より生徒の良いところは、常に周りの人に対する優しさと温かい気持ちを持っていることだと思います。

最上級生としての誇り、横須賀ろう学校への愛情を忘れずに、卒業後も頑張ってくれることを願っています。皆様方のご支援、ご理解、ご協力に感謝を申し上げます。

通級指導教室 今年度を振り返って・次年度に向けて

ことばやきこえの教室 石崎 龍介

今年度の通級教室は、44名、うち小学生32名 中学生12名でスタートしました。難聴児童・生徒は17名いましたが、3年生以上の15名を対象に4年目の「難聴グループ学習会」を続けてきました。難聴のお子さんにとって、同じ「聞こえにくさ」に困り感をもっている仲間と出会えるこの機会は、「自分はどんな聞きにくさや困り感を持っているのか」また「実際にクラスでどんな風に分かってもらおうのか」という学びの場として、お互いに話が盛り上がっていました。

またその中で、将来の自分の姿を映し出す聴覚障がい者の「ロールモデル」を招いて毎年お話を聞くのですが、今年は初めて本校通級「ことばの教室」を終了した高校3年生を呼ぶことができました。かつて本校の幼稚部にいた時の発音訓練の話から、友達に分かってもらうように努力した生の声、そして通級生へのアドバイスももらうことができました。驚いたことに、それを聞いた中学生から「今度は僕も後輩に伝えてみたい」とバトの輪が繋がる様子も見られ、この灯を絶やさないで行きたいなと思っています。